

## 加藤産業

# 流通最適化へ、シンクタンク機能持つ新会社

食品卸の加藤産業（本社・兵庫県西宮市、加藤和弥社長）は1日付で、シンクタンク機能を有する新会社「グリーンウッド」を設立した。総合研究所」を全額出資で設立した。デジタル技術やAIを活用した新たなビジネスモデルの創出

や、業務の生産性向上・効率化が急務になっている中、新会社はこれらの課題解決を図ることと流通の最適化を図り、競争優位性を担保することを目的としている。

新会社の代表者には加藤社長が兼務で就任した。

## まくら

# 製造を伴った新ロジシテムの運用開始

枕の企画開発、製造およびE・ネットによる販売を行う枕専門企業、まくら（本社・千葉県柏市、河元智行代表）は、在庫を持たず、受注生産方式で、即日生産出荷にも対応した枕の次世代ロジステイクシステム「つくれるロジ」の運用を1日からスタートした。今後は「在庫ゼロEC」というミッションを掲げ、「材料は持つが在庫は持たない」「商品廃棄ゼロ」「長期保管ゼロ」を目指す。

枕の企画開発、製造およびE・ネットによる販売を行う枕専門企業、まくら（本社・千葉県柏市、河元智行代表）は、在庫を持たず、受注生産方式で、即日生産出荷にも対応した枕の次世代ロジステイクシステム「つくれるロジ」の運用を1日からスタートした。今後は「在庫ゼロEC」というミッションを掲げ、「材料は持つが在庫は持たない」「商品廃棄ゼロ」「長期保管ゼロ」を目指す。

同社は20年間、自社スタッフ

これまででは、主に、商品の発送やギフトラッピング、アッセンブル業務に特化していたが、今後はこれらに「製造」「ファクトリー機能」を追加し、ECでの受注後、枕の製造・生産を行い、出荷を行う体制を確立した。また、DXを活用すること



即日生産出荷に対応

## 日成 CFSでトラック荷待ち時間短縮を推進

### 輸出内貨搬入貨物でシッパーズウェイト導入

日成（本社・東京都港区、廣瀬史雄社長）は、東京港大井ふ頭、横浜港本牧ふ頭で運営するCFS（コンテナ・フレート・ステーション）でトラックの荷待ち時間対策を推進する。「2024年問題」への対応の一助

とするため、11月1日搬入分から、輸出内貨貨物の重量計測サービスを取りやめ、送り状等に記載されたシッパーズウェイトでの入庫対応を行う。これにより荷物を降ろしたトラックは重量計測を待たずに戻れるため、

ドライバーの拘束時間短縮に寄与できる。

8月1日から試験的に実施してきたが、「2024年問題」対策として、トラック荷待ち時間の短縮を実現できる効果が確認できたため、正式導入することを決めた。

11月1日以降、搬入時の送り状、または持参したパッキングリスト等に記載された貨物重量（G/WT）を適用。重量計測

を希望する場合には有料で対応する。なお、貨物サイズ（L×W×H）および容積（M3）は引き続き計測し、入庫報告書を

作成する。

その信頼性を高めている。

福岡運輸では同システムの導入により、年間160万枚の受領書の照合業務を自動化し、サービスレベルの向上のほか、トータルで年間約6000時間の業務削減を見込んでいます。さらに、受領書を電子化したことで紙の保管スペースが不要になり、保管コストが削減される。今後、グループ会社への展開や物流情報プラットフォームとのシステム連携による問い合わせ業務のデジタル化に取り組み、顧客体験価値の向上とさらなる付加価値の創出を目指す。

## 福岡運輸 受領書保管業務のペーパーレス化で表彰 年間約6000時間の業務削減見込む

福岡運輸（本社・福岡市博多区、富永泰輔社長）は2日、日本文書情報マネジメント協会（JIMA）が主催する「第18回ベストプラクティクス賞」において、物流業界のイノベーションが評価され、優秀賞を受賞したと発表した。

今回の受賞テーマは、同社のDX推進プロジェクトのテーマのひとつである「帳票のデジタル化」の取り組みで、受領書保

管業務のペーパーレス化により、受領書と配送データの一元管理を実現し、問い合わせ対応の即時化と業務効率の大幅向上を達成したものである。「2024問題」に対応したもので、電子化するだけにとどまらず、既存のシステムの配送データと自動的に照合する機能を組み込み、すべての配送情報を正確に一元管理し、

## 東札幌日通輸送

# 31ftクールコンテナに 遠隔監視システム

東札幌日通輸送（本社・札幌市白石区、中島隆栄社長）は、このほど、米里支店コンテナ課所有の31ftクールコンテナ16基に簡易型温度管理システム「RM・A」を導入した。温度と位置情報を計測し、コンテナの状況を離れた場所からパソコンで確認できるようにした。

商品輸送温度・現在地をリアルタイムで確認・報告することが可能になったため、トラブル発生時の対応がスムーズとなる。冷凍機故障から修理業者手配までのタイムラグが大幅に縮まり、トラブルの件数も削減できているという。

冷凍機故障または庫内温度逸脱すると「RM・A」からメールで通知されるため、事前に修理



31ftクールコンテナ

業者を現地手配できるなど大幅に輸送品質が向上している。

ウェブサイトで・Eメールよりご意見、情報をお寄せください。

<http://www.cargo-news.co.jp/index.htm>  
[info@cargo-news.co.jp](mailto:info@cargo-news.co.jp)